2025年8月15日号（通巻128号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

全国ネットの人気ドキュメンタリー番組『知られざるガリバー』で日東精工の魅力・潜在力をご紹介いただきました

テレビ東京系列で放送中の番組『知られざるガリバー ～エクセレントカンパニーファイル～』にて当社が紹介されました。日本の優れた企業にスポットを当て、その魅力を紹介するドキュメンタリーです。同番組で紹介された内容をダイジェストで掲載します。

7月12日、テレビ東京系列6局ネットにて放送中の『知られざるガリバー ～エクセレントカンパニーファイル～』で日東精工を取り上げていただきました。

番組では当社事業がねじ製品（工業用ファスナー）、自動組立機、計測・検査装置、そして医療機器の４つの柱から成り立っていることを紹介し、ねじだけでなくねじ締め機も開発・販売している国内唯一の、締結分野のトータルソリューションを提供している企業であること。国内に16、海外では10拠点14のグループ会社で展開しているグローバルカンパニーである当社のプロフィールを概説。リポーターである同志社大学の蜂谷桃華さんに本社工場、八田工場（ファスナー）と城山工場（自動ねじ締めロボット）を見学いただきました。

当社代表取締役社長の荒賀誠がメインの案内役となり、ファスナー、産機事業のそれぞれの担当が詳細を解説。それにイラスト動画とアナウンサーのナレーションで補足するという形で番組が進められました。ファスナー事業では当社が特殊な精密ねじを得意としていることを説明。そのうえで、ワンウエイ（外すことができない不正防止ねじ）、CPグリップ（めねじ成形粉や摩擦粉の飛散や落下を防止）などのファスナー製品を紹介。

城山工場では職人の匠のねじ締めの技を、より高速で実現する自動ねじ締めロボットを実際にデモ操作。そして同製品を実際に採用されている住宅機器メーカ・セキスイハイム工業㈱の組み立て工場も取材撮影し、同社ご担当から「自動ねじ締め機が高性能化と人材不足解消に役立っている」という高評価の声をご紹介いただきました。

かつて高度成長期、カセットテープやビデオテープの全盛期に、それらに使われるねじのほとんどが日東精工製であり、さまざまな高度な要求に応えていたことから「神様ねじ」と呼ばれたエピソードを社長の荒賀がご紹介。そして、近年は、たとえば異種金属結合AKROSEが、それぞれの素材がもつ特長を最大限に引き出し、軽量化や低コスト、環境負荷軽減などに貢献できることを説明。さまざまな分野で技術革新や構造改革が進むなか、お客様ニーズに素早くきめ細かく対応できること、そして、お客様の期待を超える対応を目指していることをアピールさせていただきました。

番組を見逃した方は「テレ東BIZ」からご覧いただけます▼
ただし会員登録（有料）が必要となります。
https://txbiz.tv-tokyo.co.jp/gulliver

日東精工の人財教育

モノづくり企業にとって「人を大事にする」ことは基本中の基本。
当社では人材の「材」に「財」という字を当て「人財教育」に力を注いでおり、
そのことを各方面からも高く評価されるようになりました。
ここでは人財教育・人財育成に関連する最近の当社TOPICSをご紹介。

副学長と当社社長が会談 東京経済大学との交流を深める

今春、東京経済大学の副学長、羽貝正美教授が当社本社があるあやべを訪問、視察されました。羽貝先生は当社の人財教育をまとめた『人生の「ねじ」を巻く77の教え』などあやべに関する複数の書籍を読まれたことをきっかけに、あやべの街、日東精工の人財教育やCSR（地域貢献活動）に興味をもたれ、先生のご専門の「まちづくりと企業のコラボ」に関するゼミでも当社事例を学生に紹介されたことがあるそうです。羽貝先生があやべに来られた折り、当社代表取締役社長荒賀誠と２時間余り会談。「一企業でありながら『綾部工業研修所』という民間教育機関を設けられているのは他には例はなく素晴らしい」と当社のことを改めて高くご評価いただきました。

東京経済大学はその名前から「経済」の単科大学と誤解されがちですが、コミュニケーション学部、現代法学部などがある総合大学。大倉財閥の創始者、大倉喜八郎によって1900年に創立された大倉商業学校が前身であることから、グローバルにすぐに社会に貢献できる実学に力を入れています。今回の副学長ご訪問をきっかけに、当社との関係がより深まっていくことを願っています。

羽貝正美東京経済大学副学長（右）と
当社代表取締役社長荒賀誠

綾部工業研修所60周年を記念し ロボットを贈呈

綾部工業研修所は昭和46年に当社が本社をおくあやべの技術者を育て、地域のモノづくり力を底上げするために設立されたものです。日東精工の社員が講師となり、また京都工芸繊維大学などとの連携で1年間、週に一度、座学と実技演習をしっかり学んでいくプログラム。当社社員だけを対象とせず、門戸を大きく広げており、受講者はそれぞれ自分の会社に習得した技術を持ち帰り、技術力向上に貢献していくというものです。

７月11日の新年度、入所式において
ロボットを贈呈

本年７月11日、綾部工業研修所創立60周年を記念して、当社では研修に使用するロボット「卓上型ロボット」を寄贈しました。これまで1900名以上が卒業していますが、当社ではこれからも同研修所をさまざまな形でサポートしてまいります。

受験生応援ねじから生まれる 学校との絆（きずな）

当社では樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を受験生応援用に特別加工して、これまで11年間で7万人以上にプレゼントしてきました。全国の中学校、高校、あるいは専門学校などと、たくさんのつながりが生まれています。今年1月には京都府福知山市の中丹支援学校からの依頼を受け受験生応援ねじを贈呈。そこから中丹支援学校との作業学習に関する連携も始まっています。6月26日に中丹支援学校の学生が製作したコースターを納品していただきました。このコースターを当社で使用し、社員やお客様の感想や改善点を学校へフィードバックする予定で、当社ではこういったつながりを大切にしていきたいと考えています。

中丹支援学校との交流は地元紙「あやべ市民新聞」でも大きく取り上げていただきました

「人とくるまのテクノロジー展2025NAGOYA」に出展

※オンライン展示会は7月9日から30日まで開催

今年5月にパシフィコ横浜で開催された「人とくるまのテクノロジー展2025」の名古屋編が7月16日から18日まで Sky Expo Aichi（愛知国際展示場）で開催され、当社も横浜に続いて出展しました。自動車分野においてはAIやDXデータの活用などの新しい技術が取り入れられ、どんどん進化しています。

当社ではこういった新しい潮流にしっかり対応できる製品をラインナップ。日東精工のトータル・ファスニングソリューションをアピールしました。

また本年9月17日から19日まではベトナムのハノイにて「FBC ASEAN 2025（FBCアセアン2025ものづくり商談会）」が開催されますが、ここでは産機製品（ねじ締め機）を出展する予定です。日東精工グループでは、このような国内外の展示会を積極的に活用し、お客様の声を拾って、技術向上に役立ててまいります。

大阪関西万博イベントで「バブ・リモ」をアピール!

部品洗浄装置『バブ・リモ』

当社ではマイクロバブル生成技術を使った「部品洗浄装置『バブ・リモ』」を製造販売しています。化学洗剤（有機溶剤）などを使わず、水と空気で生成する微細な泡（マイクロバブル・ファインバブル）だけで油汚れなどを洗い流すことから、従来の部品洗浄に代わるものとして、環境対策に大いに貢献できると自動車分野などで採用され、高く評価されているものです。

7月17日に、当社も協賛している一般社団法人ファインバブル産業会（FBIA）が、大阪関西万博 EXPOサロンで「ファインバブル国際シンポジウム」を開催しました。そのなかで、当社の「部品洗浄装置『バブ・リモ』」についても動画で紹介。世界中から集った多くの方々に当社の製品技術をアピールすることができました。

あやべの夏の風物詩、あやべ水無月まつりに協賛

あやべ水無月まつりは当社が本社をおく綾部市の夏の風物詩です。さまざまな団体や企業が競う「良さ来い（よさこい）」に、今年も当社グループの海外研修生と当社若手社員を中心とするメンバー編成で参加しました。

そして祭りのフィナーレは「花火大会」。この花火についても、当社では毎年、地元企業として協賛していましたが、本年については「日東精工」単体としてではなく、日東精工グループとして協賛し地元を盛り上げています。

日東精工テクニカルレポートNo85を発行しました

当社では毎年、日東精工テクニカルレポートを発行し、製品開発の背景や技術情報などを一般公開しています。今般、最新の第85号が完成し、小冊子のほか、デジタルデータを当社ホームページでも紹介しています。

今号ではファスナー事業本部、産機事業本部、制御システム事業本部、そしてメディカル新規事業部（京都府立大学大学院との協同）、さらにグループ会社の日東公進の6つの報文を中心に製品紹介や特許紹介も掲載。巻頭には「ナノ／サブナノ多孔膜の開発とカーボンニュートラルへの貢献」について、広島大学名誉教授の都留稔了先生からご寄稿いただいていますので、ぜひご一読ください。

▲こちらから閲読いただけます

誠の言霊（ことば）㉘

森は時間の蓄積 事業は経験の積み重ね

代表取締役社長 荒賀 誠

当社には剣道の昇段試験を受ける、六段から七段を目指す錬士がいます。上にいくほど試験は難しくなり、単に「相手に勝てばよい」ということではなく、剣道に対する心構え、品格などが総合判断されるそう。剣道には「打って反省 打たれて感謝」という言葉があるそうで、勝ち負けが優先されるスポーツと異なり、まさに武道ということでしょう。

また、次の高みを目指す場合には「時間（とき）」が必要になります。七段は六段取得後6年以上、八段は七段後10年以上修行しないと昇段資格が得られません。才能があるから飛び級、選手権で優勝したから昇段というものではなく、時間をかけて自分を磨き、培われていくものを大事にするということでしょうか。

タイパ（タイムパフォーマンス）という言葉があります。「効率よく」に重きが置かれ、当社でもお客様ニーズに応えるために欠かせないものです。しかし、そのベースは矛盾するようですが、丁寧にきめ細やかにということ。それにはやはり「時間」も必要です。当社の「人生の『ねじ』を巻く77の教え」のひとつに「森は時間の蓄積である」があります。植林したからといってすぐに森になるものではありません。長い事業経験の積み重ねから生まれてくるものもたくさんあります。一つひとつの時間を大切にしていきましょう。

「幸せ」を見つけるヒント ―― 8月

信頼のレベルを上げる

お付き合いを重ねるなかで信頼関係を構築。「あの人は嘘をつかない、いい人だ」というように絆を深める、これが一般的な「(人格的)信頼」です。それとは別に「専門的信頼」もあります。たとえば旅先で具合が悪くなり病院に行くとします。初対面の先生でも自分の悪いところを伝え、聞かれたことに無防備に答えるのは、相手が医者であることへの無意識の信頼があるからです。飛行機や新幹線などに乗るのも、パイロットや運転士が特別な訓練を受けたプロであるという「信頼」の上に成り立っています。

先日、当社が本社をおく綾部の警察署署員の方々に「利他の心」と題した講演をする機会を得ましたが、警察官も「専門的信頼」が高い職業ですね。

仕事やプライベートで、○○には自信をもって対応ができるという専門性があれば、それは大きな強み「専門的信頼」につながります。「あの人にまかせれば安心」といってもらえる「人格的信頼」にも磨きをかけて、信頼のレベルを上げていきましょう。

6月に綾部署での講演をする材木正己会長

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭 材木正己

発行：日東精工株式会社経営戦略本部経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます